日本経済新聞　2016年（平成28年）4月1日（金曜日）

農地で太陽光発電

ルネサンス 事業モデル確立狙う

酒類販売などを手掛けるルネサンス・プロジェクト（福岡市、中村鉄哉社長）は、農地を活用する太陽光発電事業に本格的に参入する。燃料商社のミツウロコグループホールディングスと組み、発電設備の建設ノウハウを得る。農業の収益拡大や耕作放棄地の再生・活用を図る事業モデルとして全国展開を目指す。

ルネサンスグループが山口県内に所有する山林1万5千平方㍍を農地化する許可を取得。約2億円を投じて、1年以内にも最大で出力750キロワットの太陽光発電設備を建設する。これまで2500平方㍍の敷地で出力250キロワットの設備を試験運用していた。

太陽光パネルの下では、瀬戸内レモンを栽培するほか、養鶏の施設も置く。鶏の飼育数は1万羽程度を計画している。

1日付でミツウロコグループから役員を受け入れる。

太陽光発電と農業の双方で高い収益を確保するためのノウハウ確立も進める。山口大学の協力を得て、太陽光パネルを置く角度や間隔を検証し、農産物の生育にも適した日照バランスを探る。漢方薬の栽培なども試みる。農家が高齢化しても、安定的に収益を得られるモデルの構築を目指す。

ミツウロコ側は将来の農業分野への本格参入を見据えて建設ノウハウなどを提供する。